

- ▶ 林業を取り巻く状況が依然として厳しい中、新たな視点などにより状況を打破するとともに、地域振興の核となりうる人材が必要とされている。また、県内において、林業専任の職員を配置している市町は限られており、市町職員のスキルアップや市町を支援できる人材の育成が必要となっている。
- ▶ このため、「みえ森林・林業アカデミー」において、林業事業者等をはじめ幅広い人材を対象とした3つの基本コース（ディレクター育成コース、マネージャー育成コース、プレーヤー育成コース）及び特殊伐採などの専門的な内容の選択講座、市町職員のスキルアップを図る市町職員講座、地域林政アドバイザー講座などを実施。

□ 事業内容

1 みえ森林・林業アカデミー運営事業

- ・県内外のトップランナーを講師に迎え、さまざまな分野の最先端の知識や技術を学べる講座を開催。

【事業費】 36,244千円（うち譲与税35,900千円）

【実績】

- ・経営者層向けのディレクター育成コース（1年次9名、2年次7名）
- ・中間管理者層向けのマネージャー育成コース（9名）
- ・現場技術者向けのプレーヤー育成コース（7名）
- ・選択講座（10講座）（延べ114名）
- ・市町職員講座（11名）
- ・地域林政アドバイザー講座（15名）

□ 取組の背景

- ・木材価格の低迷など、林業を取り巻く状況が依然として厳しい中、新たな視点や多様な経営感覚により、こうした状況を打破し、さらには、地域振興の核となりうる人材が必要とされている。
- ・また、県内において、林業専任の職員を配置している市町は限られており、森林経営管理制度を活用した森林整備等の推進などに向けては、市町職員のスキルアップや市町を支援できる人材の育成が必要である。



伐倒技術講座（プレーヤーコース）



情報発信講座（ディレクター、マネージャーコース合同講座）



特殊伐採講座（選択講座）

□ 工夫・留意した点

- ・基本コースの受講日数は14～21日、一月あたりでは2～3日程度とし、働いている方でも受講しやすく、短期間で効率的に学ぶことができるようにした。
- ・基本コースとは別に選択講座を設定し、より専門的な知識や技術を、自身の状況に応じて学べるような仕組みとした。
- ・市町職員講座については、森林環境譲与税の有効な活用方法を学ぶため、県内市町の事例報告のほか、県外から先進的な取組を実践する講師を招聘した。

□ 取組の効果

- ・既就業者を対象とした3つの基本コースの運営により、それぞれの所属で求められる役割やキャリアデザインに応じた林業人材の育成が図られました。
- ・森林GISやドローン、航空レーザ測量データを活用した最新の技術等を習得する選択講座の運営により、より専門的な知識及び技術を習得した人材の育成が図られました。
- ・市町職員を対象とした講座の運営により、林業行政の基礎知識を習得し、市町による森林経営管理制度等の促進に繋がっています。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：142,686千円	②私有林人工林面積（※1）：193,805ha
③人口（※2）：1,770,254人	④林業就業者数（※2）：1,027人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より